

# JAPANESE DENTAL HYGIENISTS' ASSOCIATION

# 歯科衛生だより

2023 April vol. 74

発行人／吉田 直美  
発行／公益社団法人 日本歯科衛生士会  
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-11-19  
TEL.03(3209)8020 FAX.03(3209)8023  
<https://www.jdha.or.jp/>

## 知ってほしい口腔がんのこと 口腔がんは増えています

NTT東日本関東病院 歯科口腔外科部長

山城 正司

### 口腔がんの現状は？

口腔がんを発症するのは人口10万人あたり6人未満で、まれな「希少がん」に分類されますが、この30年で4倍以上に増えています。国立がんセンター「がんの統計(2022)」では、2018年には22,515人(男性15,679人、女性6,836人)が口腔・咽頭がんと診断され、2020年の死亡数は7,827人と報告されています。現在、超高齢社会の日本でがんは死因のトップですが、口腔がん多くのがんと同様、高齢になると罹りやすくなります。しかし、その一方で、口腔がんがこれまで少ないとされていた、「若年者、女性、非喫煙・非飲酒者」でも増加傾向にあることに注意が必要です。

### 口腔がんの症状は？ どのように進行する？

口腔がんの約9割を占める扁平上皮がんは、口の中を覆っている粘膜上皮から発生します。口の中の部位により、舌がん、(上顎・下顎)歯肉がん、口底がん、頬粘膜がん、硬口蓋がんに分類され、このうち舌がんが約半数、歯肉がんが約4分の1を占めます。また、数は少ないですが、顎骨の中(顎骨中心性がん)や唾液腺がん、悪性黒色腫というメラニン産生細胞から発生するホクロのがん、骨肉腫などの骨軟部腫瘍、悪性リンパ腫などの造血器腫瘍、他の臓器のがんの転移(転移性がん)が口腔に見られることがあります。



図1 口腔・咽頭がんの罹患数、死亡数の年次推移  
(口腔がんだけでなく咽頭がんも併せた数)

最も多い口腔扁平上皮がんでは、表面にとどまっている早期のがん(表在がん)は、白斑や紅斑、粘膜のただれ、違和感、しみるなどの症状があることが多いのですが、痛みはあることもないこともあります。また、舌がんと歯肉がん

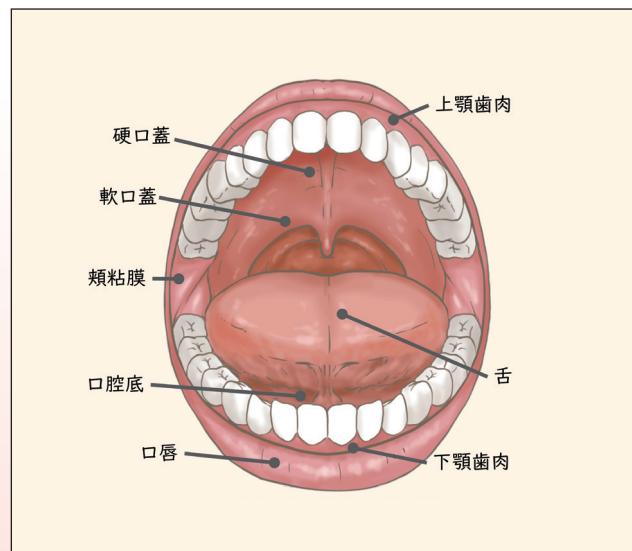


図2 口腔の名称

では、初めの症状(初発症状)が少し異なります。早期の口腔がんは診断が難しいことがあります。口腔外科や耳鼻咽喉科などの専門科で、病理組織検査などの精密検査が必要なことがあります。**2週間以上治らない口の中の異常**を感じたら、こうした専門科を受診することをお勧めします。

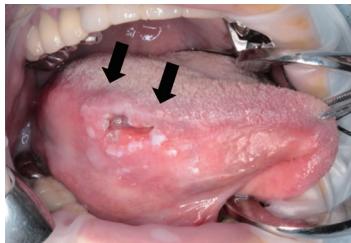


図3 舌がん  
右舌に硬結(しこり)のある潰瘍があり強い痛みがある

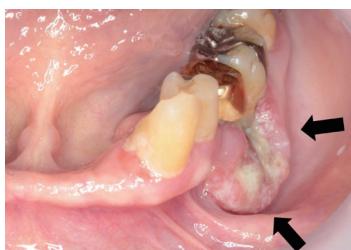


図4 下顎歯肉がん  
左下顎の歯肉に隆起した腫瘍があり、歯を磨ぐと出血する・痛みはありません

表1 口腔がんの初発症状(自覚症状)  
舌がんは痛み、歯肉がんは腫れ・腫瘍が最も多い

症状	舌がん (%)	歯肉がん (%)
痛み	38 (46.3%)	10 (27.0%)
腫れ・腫瘍	5 ( 6.1%)	13 (35.1%)
発赤・ただれ	10 (12.2%)	4 (10.8%)
潰瘍	8 ( 9.8%)	1 ( 2.7%)
白斑	7 ( 8.5%)	1 ( 2.7%)
違和感	10 (12.2%)	3 ( 8.1%)
嚥下困難	3 ( 3.7%)	1 ( 2.7%)
歯の動搖	0	3 ( 8.1%)
その他	1 ( 1.2%)	1 ( 2.7%)
計	82	37

天笠光雄他:口腔がんの早期診断アトラス 医歯薬出版 2008

がんは進行すると、もりあがり、中心部がえぐれた潰瘍や腫瘍となり、硬結(しこり)を触れるようになります。また、血管が侵されると出血しやすくなり、神経が侵されると強い痛みや感覚異常(しびれ)を生じます。そして、がんは深部に浸潤してリンパ管や血管を通って、転移して**首のリンパ節が腫れます**(頸部リンパ節転移)。さらに進行すると肺、肝臓、骨などの離れた臓器に転移(遠隔転移)して全身へと広がっていきます。



頸部リンパ節の位置

## 口腔がんの治療は?

口腔がんの治療は今でも手術(外科切除)が主体です。口腔がんの手術を受ける患者さんの多くは話すこと

や食事への影響、外見の変化を心配されます。しかし、ステージIの早期がんであれば手術時間、入院期間も短く90%以上が治り、機能障害もわずかです。転移していない口腔がん(ステージI、II)は手術で切除すれば治癒率も高いのですが、リンパ腺に転移すると、**頸部郭清術**といふ首のリンパ節を取り除く手術が必要になることが多く、治癒率も約半分に下がります。また、切除により口の中に大きな欠損が生じる場合、機能障害を少なくするために、他の部位から組織を移植する再建手術が行われることがあり、手術時間、入院期間も長くなり、社会復帰を目標に術後のリハビリテーションが必要なこともあります。さらに術後の補助療法(放射線治療、化学療法)を行うことがあります。



手術困難な再発・進行がんや遠隔転移など、従来治療が難しかった進行がんに対しては、薬物療法が選択されることがあります。最近10年のがん治療で大きな進歩を遂げています。従来の抗がん剤に加えて、免疫チェックポイント阻害薬などの分子標的阻害薬など、様々な薬剤が登場しています。嘔吐などの辛い副作用といった、かつての化学療法の負のイメージは少なくなっていますが、時として重篤な、多彩な副作用が見られることがあるので注意が必要です。今のところ、薬物療法は根治治療(がんを消滅させる治療)ではなく緩和的治療(がんとの共存をはかる治療)という位置づけであり、全ての患者さんに効くとは言えません。しかし、中にはがんが小さくなり、長期にわたって進行しない例もあり、社会生活を続けながら外来通院で治療を行うこともできるようになりました。口腔がんに限らず、現在のがん医療は、主治医、主科以外に様々な専門科、多職種と連携したチーム医療が行われます。

## 口腔がんの予防は?

がんは遺伝子の傷(変異)が蓄積して発症します。親からの遺伝で発症するがんは少なく、多くは後天的な環境、生活習慣や感染などが影響します。口腔がんの代表的な危険因子は、喫煙、飲酒、慢性刺激です。子宮頸がんと関連が深い、ヒトパピローマウイルス(HPV)は、若

年者の咽頭がんでは強い関連がありますが、口腔がんでは少ないとされています。また、喫煙と飲酒は相乗効果があり、口腔だけでなく、咽頭、喉頭、食道など上部消化管のがんとも強い関連があります。特に飲酒で顔が紅くなる方は注意が必要で、特に食道がんのリスクが数十倍になるとされています。

慢性刺激は口腔がんに特有の危険因子です。**倒れこんだ歯や、むし歯などで尖った歯、合わない義歯**は、口の中の粘膜を常に傷つけます。最近増加している、若年者、女性、非喫煙・非飲酒者の口腔がんの多くは舌がんで、この機械的な慢性刺激が誘因となっている可能性があります。



このような機械的刺激は放置せず、歯科医院で治療してもらうことを強くお勧めします。

## さいごに

最近、多くの地域歯科医師会が口腔がん検診も行っていますが、日ごろから、歯や歯茎の痛みだけでなく、口の中に異常を感じたら気軽に相談できる、かかりつけ歯科を持つことが大切です。また、白板症、紅板症、口腔扁平



**苔癬**など、口腔潜在性悪性疾患と呼ばれる、がんになる可能性のある病変もあり、専門医での検査と定期的なチェックが望ましいこともあります。

さいごに歯科衛生士が主人公の歯科医療漫画『デンタルクエスト』(集英社コミックス)を紹介します。最新の『デンタルクエスト』第4巻20話では口腔がんが取り上げられています。最初に書いたように、今後も口腔がんは増えていくことが予想されますが、残念ながら、今でも早期がんで診断される方は少なく、進行してから口腔がんと診断される患者さんが多いのが現状です。口腔がんは内視鏡などの特別な検査機器がなくても発見できることは多く、早期診断・治療を行えば、障害も残らず、治癒率も高いがんです。そのためには**多くの方に口腔がんについて知ってもらうこと**が一番大切なことだと思います。



図5 デンタルクエスト 第4巻表紙  
©セキアトム・箸井地図／集英社

口腔がんについてストーリー内で大きく取り上げる回は第5巻収録予定の第28~29話(連載3~4月に「となりのヤングシャンプ」/アプリ「ヤンジャン!」掲載予定)